

第5学年国語科の実践

1. 単元・教材名 人物の考え方や生き方をとらえよう「わらぐつの中の神様—方言と共通語」

2. 単元目標

◎行動描写・会話などから人物像を読み取る方法を知って読み、人物の考え方・生き方について自分なりの感想をもつ。

◎方言と共通語についての知識をもち、関心を深める。

国語への関心・意欲・態度	読む力	言語の力
(ア) 課題に対する関心をもち、進んで読んだり調べたりしようとしている。	(ア) 登場人物の人柄や場面の情景を、叙述に即して読んでいる。	(ア) 読み手を引きつけるための物語の展開の工夫（現在—過去—現在）に気づいている。
(イ) 課題を見つけ、また課題についてよく発表しようとしている。	(イ) 現在—過去—現在という物語の構成とその構成とその効果について理解している。	(イ) 方言と共通語の違いを理解している。

3. ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

(1) 単元について

「わらぐつの中の神様」は現在のマサエの家庭の話、おばあちゃんの思い出話、現在のマサエの家庭の話の3つの場面からなり、現在—過去—現在という、昔語りを前後で包み込んだ構成となっている。

第1場面（現在）では、マサエはおばあちゃんに勧められたわらぐつを「みつともない、誰もはいている人がいない」と見かけから判断するが、おばあちゃんは「わらぐつはいいいもんだ。あったかいし、軽いし、すべらんし。」とわらぐつの機能面からよさを判断している様子が書かれている。このことを元におばあちゃんが過去のことを話し始めるのである。

第2場面（過去）ではおみつさんが店先で見つけた雪げたをどうしても欲しくなり、わらぐつを売って雪げたを買おうとする。おみつさんが作ったわらぐつは決して見た目のよいものではないが、はく人のことを思って、心をこめて作ったものである。市でわらぐつを見た人は、そのわらぐつを馬鹿にしていくのだが、若い大工が使う人の身になって作られたものこそ、ほんとにいい仕事であるとのものの見方を示し、結婚を申し込むのである。

第3場面では現在にもどり、おみつさんとはおばあちゃんのこと、若い大工さんはおじいちゃんであることが判明する。マサエはおばあちゃんの話聞いて、わらぐつに対する見方や心が変わるなど、成長が見られるのである。1場面と3場面があることで、マサエの成長を感じると共に、自分の生き方や考え方をより考えさせる作品である。

心をこめてわらぐつを編んだおみつさんと、見せかけでない本当の価値を見抜いた大工さんとの心の通い合いを通して、「心のこもったものこそ、人間の本当の幸せにつながる大切な価値がある」と気づかせてくれる。子どもたちが自分の生き方について考え、豊かな心情を持たせるのにふさわしい作品である。

(2) 導入について

リード文の「人物の考え方や生き方をとらえよう」を扱う際、どんなことを学習のねらいとして、そのためにはどのように読んでいけばよいかをしっかりと確認し、子どもたちの中にめあてが根づくようにする。「生き方」という言葉は、漠然として難しい面もある考えられるので、どのように行動しているのか、どのように人や物に関わっているかなど具体的な言葉に置き換える。

学習の最初に題名読みを行う。「わらぐつの中の神様」とは、どんな神様なのか想像を広げると共に、物語に関心を持って入っていけるようにする。最初に読んだ後に感想を書き、どういったところをクラスとして着目して読んでいくのか全員で確認してから進めていく。読みのめあてや考えていきたいことを持つことで、学習を進

めていく上での切実な問題となるようにつなげていきたい。

(3) 学習過程とひびき合いについて

学習は登場人物の気持ちや人格を読み取りながら進めていく。このお話の登場人物の考え方や行動には、物事の真理をつくものや人として手本となるような姿が書かれている。ていねいに読み取っていくことで、マサエがおばあちゃんの話聞いた後で変わったように、自分自身もどのように感じ方が変わったのかを考えられるようにしたいと考えている。

読みのめあてを持ち、一人読みから徐々に読みの交流を広げていくことで、個人の読みを深めていけるようにしていきたい。その後一人読みから全体につなげていく事をくり返し、学習パターンを確立させたい。

まず、読み進めていくのに教科書への書き込みを個人で行う。地の文や会話文から登場人物の気持ちや情景など自分が感じたこと、思ったことや想像したことを書き込んでいくようにする。一人ひとりが教材と向かい合い、自己の想像読みを広げていけるように十分時間をとっていきたい。子どもたちはこれまで書き込みを経験していないので、最初にやり方をいっしょに確認していくようにする。

一人読み後に一人ひとりが書き込んだことをペアまたは小グループの中で交流する。自分の読みと友達との読みとの交流を通して、視点の広がりや深まりをねらうものである。また、ペアで話し合ったものもとに全体でも話し合っ、より深めていく。1時間の最後に感想を書き、最初に読み取ったことから友達との交流を通じてどう自分の考えがどのように広がったり深まったりしたのか表現していくようにしたい。そして単元の最後には「心のこもったものこそ、人間の本当の幸せにつながる大切な価値がある」につなげ、子どもそれぞれが自分の生き方に考えられるようにしたい。

全てを詳しく読むことには時間に限度があるため、考えたい文を教師が授業の流れの中で適切に発問しておくことも必要と考えている。また、会話文が多いので、役割をごとに読むことで、登場人物の気持ちを考えるヒントとなるようにする。

「ひびき合う」姿は、自分の考えに友だちの考えを聞いて、思考を深めたり、広げたりする姿とする。進んで友だちの考えを取り入れたり、比較したりしながら、読みが深まっていくようにしたい。

4. 単元計画

	時間	単元計画	評価場面（方法）
第一次	① ②	○全文を読み、感想を持つ ・単元のねらいを知る。 ・「わらぐつの中の神様」はどんな話か、題名から想像する。 ・全文を読み通して感想を書く。 ・第1場面でのマサエとお母さんの人柄を話し合う ・第1場面（現在）でのわらぐつに対するおばあちゃんとマサエの見方の違いを読み取る。	※意・関・態 全文を読んで、人物の生き方や考え方にふれる感想を持つことができる。（ノート・発言）
第二次	③ ④ ⑤ ⑥（本時） ⑥	○登場人物の人柄や考え方を読み取る。 ・雪げたをほしいと思う場面 ・わらぐつを作っている場面 ・わらぐつを売りにいく場面 ・大工さんがわらぐつを買う場面（本時）	※意・関・態 課題に向かって心に残る言葉や文章を楽しんで読み、進んで対話しようとしている。 ※読む 登場人物の人柄や場面の様子、情景を叙述的に即して想像し、味わいながら読んでいる。（発言・ノート・教科書）

第三次	⑦ ⑧ ⑨	○文章構成に現在のマサエ家庭の話があることの意味を考える。	※読み マサエの気持ちの変容を読み取り、現在－過去－現在という物語の効果を理解している。(発言・ノート)
-----	-------------	-------------------------------	---

5. 本時について

(1) 本時目標

○大工さんの言動を通して、大工さんの人柄を話し合い、本質を見抜く人物像を読む。

(2) 本時展開

学習活動	発問と予想される児童の考え	・指導上の留意点※評価
1. 学習のめあてを確認する。		・前時のおみつさんの心情を振り返りながら、本時のめあてを確認する。
大工さんの人柄やどんな考えを持っている人なのか読もう		
2. 大工さんがどんな人か読む。 ・ペアで話し合う	○大工さんはどんな人だろう。 ・仲間のわらぐつも買っているので、やさしい人 ・おみつさんのことを励まそうとしているからやさしい人 ・使う人の事を考えられる人 ・大工に夢や希望をもっている人	・大工さんがどのような人なのか、想像できそうな会話や地の文に着目して、思ったことを自由に教科書に書き入れるようにする。 ・どの文から大工さんがどんな人か想像したのかを自分なりにノートにまとめ、理由も書くようにする。 ・ペア（少グループ）で話し合い、自分の考えを本文の言葉を元に交流する。よいものは自分の考えに入れるように声をかける。 ※大工さんの人柄や考え方を読もうと、進んで書き込みをして自分なりの大工さん像を持っている。（意・関・態）
・全体で話し合う	○「P19L4～L8」の言葉を強く言い切る大工さんからどんなことを感じるか ・強い意志を持っている感じ ・仕事にこだわりを持っている感じ ・おみつさんをはげましている ○大工さんは直接人柄も知らないおみつさんと結婚しようとしたのはなぜだろう ・おみつさんの作るわらぐつからおみつさんの人柄を読み取ったから。	・急にまじめな顔になったところをおさえる。 ・P19ページの大工さんの話し方にも着目する。 ・わらまんじゅうなどと言っていた人とも比較しながら読むようにする。 ・前時までの流れの掲示も利用して、考えやすいようにする。 ・わらぐつを通して、おみつさんの人柄を感じた大工さんにもふれるようにする。
3. 話し合いをもとに、大工さんの人柄をまとめる。	・ものを外見で判断しないで、ものの値打ちがわかる人 ・仕事に対して夢や希望を持っている人 ・おみつさんと似ているところがある。 ・決断力がある人 ・相手のことを思いやれる人	・最初の自分の考えと比べながら、大工さんについてまとめてかく。 ※大工さんの言動や友達の考えから、大工さんの本質を見抜く人物像をとらえることができる（読む）

6. 実践の終えて

「わらぐつの中の神様」の教材を読むことを通して、最後には自分の生き方についてふり返ったり、考えたりできるようなねらいをもって学習を進めていった。単元のつくり方としては、子どもたちの初発の感想と登場人物の生き方や考え方を読むというリード文を合わせて、登場人物の気持ちが想像できる文に着目しながら読み進めていくこととした。教師の思いもあり、教師が主導となって方向付けをしていったようなところがあるところは反省すべきところである。

本時の課題が子どもの切実な課題になったかどうかという点では、十分切実になっていたとは言いがたいと思う。大工さんの人柄や考え方を読んでいくめあてであったが、主発問の仕方が子どもにとってはぼんやりとして子どもの言葉になっていなかったように思う。また、単元計画の中で、前時までおみつさんの気持ちをずっと考えてきて、急に大工さんの気持ちを考えていくところに子どもにとって違和感があったのではないかと感じた。そういった意味では、最初に子どもたちと単元作りをしていく中で、どういったことを目標に読んでいくかを十分話し合っただけで進めていく必要があると感じた。

学習を通しての成果として、一人ひとりがどの場面でも自分なりの考えをもてたことがあげられる。文章の言葉や文に着目しながら、それぞれが書き込みをしていったことで場面ごとに自分なりに考えを持つことができた。どの場面でも繰り返し行ったので、徐々によりスムーズに活動することができた。また、書き込み後にペアやグループで情報交換をパターン化したことで考えが確かなものになったり、考えを広めたりすることができたと感じている。ただせっかく書き込みをしたことを全体に広めていく時に、もっと個々の考えを引き出せるような教師の声かけが必要だったと感じている。ひびき合うという点からも、子どもの考えを絡ませていくような発問や声かけが必要だった。「同じ場面に線を引いた人は」「意見についてどう思う」などの声かけでうまく引き出せればもっと意欲的に学習も進み、また読みの深まりもあったように思う。また、読みを深める手立てとして、拡大した文章を掲示しておく、視覚的に文章構成をとらえ、文章に返って話し合うことができたと思う。

課題作りの場面では、子どもがどんなことを考えたいと思っているのかを見とる必要があった。初発の感想をもとに、子どもの思考がどこに向いているのかを全員で確認していくことで、子どもたちが追究していきたいと思えるような課題作りができたのではないかなと思う。自分たちで作っためあての方がより意欲的に切実感をもって取り組めるのだろうと思っている。